

# 民進新代表に大塚氏

## 立民・希望と 連携模索 早急な再編は否定

民進党は31日、両院議員総会を開き、辞任した前原誠司氏(55)の後任となる新代表に参院議員の大塚耕平(58)を選出した。大塚氏以外に立候補の届け出はなく、無投票で了承された。総会では「立憲民主党や希望の党、民進党を中心に政権交代を実現しなければならない」と連携を模索する姿勢を強調。その後の記者会見では「徐々に信頼関係を構築していく。すぐに合併、再編されることはない」と、早急な野党再編を否定した。

新代表の任期は来年9月まで。11月1日召集の特

別国会を控え、執行部人事を急ぐ。前原氏が主導した希望との合流は失敗しており、大塚氏は「党勢拡大を表現するため、代表として粉骨砕身する」と、党の立

て直しを優先させる方針だ。

2019年の参院選への対応について「二つの新しい政党が独立独歩で進み始め、何か確定的なことを申し上げる段階にな

策を始める」とも語った。

党運営の要となる幹事長人事に関しては「全くの白紙だ。いつまでに決定するかを含めて、関係者と相談する」とした。

安倍政権に対し「経済、社会保障、安全保障政策の問題点をたまたす」とした上

【代表】  
大塚 耕平氏(おおつか こうへい) 早大院修了。厚生労働副大臣、民進党政調会長代理、広報局長。58歳。愛知選挙区、参院当選3回

で「国民の所得水準を向上させ、国際社会の中で平和を主導できる国を目指す」と訴えた。

共産党との協力については「慎重かつ原理、原則に基づき対応したい」と述べ、政策的な一致がなければ共闘は難しいとの認識を示した。

代表選には、前原氏の前代表を務めた連舫参院議

員も立候補する動きを見せたが、混乱回避を理由に断念した。

### 政策をしっかりと

民進・藤田氏

民進党の藤田幸久氏(参院茨城)は、10月22日投票の衆院選で比例票が立憲民主党と希望の党を足すと自民党を上回る点を挙げ、「民意を正確に反映できる政党、政策をしっかりとつていく」と強調。地方組織の強化にも触れ、「県内でも民進党県連、希望、立憲民主の方々と、さまざまな交流を加速させたい」と述べた。

## 結束優先、代表選を回避

民進党は31日、新たな代表に大塚耕平参院議員を選び、再スタートを切った。選挙戦を回避したのは対立先鋭化で「さらに党が割れかねない」(幹部)との危機感からで、結束を優先した。大塚氏は党再生を図ると強調するが、局面転換の方策は見通せず、求心力を欠いたまま漂流が続く可能性もある。

希望の党への合流失敗の責任を取って代表を辞任した前原誠司氏の後継を巡る代表選。一時、岡田克也元代表の名前が浮上したものの、岡田氏は30日夜に不出馬を明言した。衆院選で公認候補を立てず、所属の国会議員は衆院より参院が大幅に上回る状況では、参院側から代表を出すのがささわしいとの声が強まっていることも背景にある。

3陣営とも、選挙になれば党の分裂を招きかねないの思いは共有していたものの、大塚氏の立候補に懸念を抱いたのが小川、連舫両氏。大塚氏は一部から「分党派」と目されてきたのに対し、2人は党を割るべきではないとの考えがなかった。

大塚氏は2019年の統一地方選や参院選を見据え、党の再建に取り掛かる。希望への合流による事実上の解党決定から合流失敗、参院側が中心となって党存続と、もがきながらも状況は一層厳しくなる。分裂した立憲民主党や希望との関係、共産党との連携は本格議論をすれば、党を二分しかねない。

「皆さんの調整の結果、大局的な観点から一本化してもらった」。31日の両院議員総会での代表選出後、大塚氏はこう切り出した。

就任の記者会見では大塚氏が「分党論者」と見られ

川敏夫参院議員会長、代表経験者の連舫氏が動きだ

31日には、また衆院議員から離党届が出された。ベテラン議員は「うんざり」。今の民進党は壊滅的な状態だ。先の展望など聞ける状況ではない



民進党の代表に選出され、記者会見する大塚耕平氏。31日午後、東京・永田町の党本部